

令和7年度 第2回学校運営協議会 会議録

みよし市立緑丘小学校

1 開催日時：令和7年10月23日（木）13：40～15：00

2 開催会場：みよし市立緑丘小学校 校長室

3 参加者：学校運営協議会委員、学校代表、市担当者等（計12名）

【学校運営協議会委員】

会長 三ツ本 隆様（地域学校協働推進委員） 三宅 敬子様（地域学校協働推進委員）

副会長 河北 圭一郎様（地域学校協働推進委員） 林 剛様（地域学校協働推進委員）

松井 志夫様（三好丘緑行政区長） 岡部 敏和様（三好丘桜行政区長）

伊藤 正彦様（ひばりヶ丘行政区長） 高橋 小夜子様（現PTA会長）

上田 光宣様（前PTA会長）

【学校代表】 校長 黒田 和秀 教頭 前川 直子

【市担当者等】 学校教育課 長谷川 洋子様

4 日 程

(1) 授業参観：13：40～14：00

(2) 協議会：14：00～15：00

- ・学校経営について（校長）

- ・協議、承認

5 協議内容等の報告

(1) 学校経営について（別紙「令和7年度第2回学校運営協議会資料」参照）

○後期の重点と行事計画（子どもの主体性を生かした取組）

- ・みどりっ子フェスタ（11月15日実施予定）発表形態を変更

各教室フロアで開催、見栄えよりも「一人ひとりの学びの発表」を重視する。

- ・体験活動（柿狩り等）の充実、家庭・地域・CS・寄付等の支えへの感謝と今後の連携継続

- ・なかよし掃除（縦割り清掃）を基盤にした避難訓練

清掃時間に災害が起きた想定で、6年生班長が導線・役割・用具の扱いを説明し主導で実施する。

訓練後に全学年で振り返りを実施し、高学年はタブレットフォーム、低学年は紙で記録する。

課題認識：話し声・真剣さ・危機意識の差・避難基準の相違を検討、6年授業で改善策を検討し、

全校に展開予定、次回（第3回）は、「放課中の発災」を想定し、反省を生かして全校周知を計画している。

- ・ミニ通学班会（毎月）班の現状と問題点を話し合い、安全な登下校のための振り返りと改善
低学年が高学年に過度に依存せず、自立的判断力を育むことを目標とする。

- ・なかよし掃除の「ありがとうメッセージ」

前期のよかった点を言語化し、班員全員に感謝カードを配付、自己有用感と次の班での姿勢の継承を促進する。

- ・なかよし広場（運営委員主導）

学年ペア（例：1年×6年）で交流クイズ企画、縦割りで他学年との関係構築を推進する。

- ・地域ありがとう集会

地域支援への感謝状と首飾りの贈呈、代表者挨拶、地域に支えられている認識を高めた。

- ・地域の力を借りた学習（学年別）

1年：昆虫博士による虫学習・校庭で採集と観察を行い、命の大切さへの気付きにつなげた。

2年：まちのきらり探し・中庭収穫・地域畑の落花生収穫体験、実体験による理解を図った。

3年：みよし市のよさ調べ（ラッピングトラック見学・土器づくり・棒の手体験・カヌー体験）や食育カルビーの食べ方学習等を行った。

4年：フードロス学習を通して給食残食の削減を自分事として行動変容を促進し、パッカー車見学や給食センターの学習も行った。
5年：田植えから稲刈り、はざ掛け、乾燥まで体験。安全に収穫完了した。農作業の大変さへの理解を探求していく。
6年：防災的な学習（HUG避難所運営ゲームの学校版）を通して、「避難所は助けてもらう場所でなく、助け合う場所」の学び、避難訓練に向けた防災の探究を継続している。
その他の地域連携体験：トラックの内輪差実験、給食センターの調理工程見学、オカリナ・リコーダー講師による正課クラブ指導等。

（2）協議内容 ○：評価できる内容 △：気を付ける点、今後の課題やアイデア

△情報発信の到達度不足（学校だより・学年だより・HP等）、活動の趣旨・意義が広く伝わる工夫が必要

- • 広報の強化：学校関係者だけでなく一般住民へ届く手段（市広報、ケーブルTV、HP、LINE活用、隣ネットワーク）を模索
- 地域コーディネーターと情報発信
- 草の根のPRの積み重ね（地域イベント・文化祭・敬老会等での直接周知・協力依頼）
- 保護者世代（30～40代）の巻き込み強化
- 活動認知不足への対応（校内外での周知、警戒感の払拭、実例提示）

△ボランティア参加の広がりと持続可能性の確保：学年横断で体験を系統化し、地域講師の継承・データベース化・新規発掘を推進

- • 後期の授業・学年行事・学校行事の充実と改善サイクルの確立
- 地域・行政・交通に関する意見・協議
- コーディネーターは4名へ増員
- 個人関係に依存しないよう、市レベルの人材データベース化を要望

△食育の充実：好き嫌いの克服、家族の共食減少への対応、家庭と学校の連携（朝食調べ・弁当の日等の先行事例参照）

通学路・安全対策

○セアカゴケグモ情報共有と迅速対応の必要性

△西門付近T字路の混雑・視界不良対策：横断歩道の明確化（青色舗装やペイント）、ごみ収集時間帯の死角対策、飛び出し注意喚起の継続

△小学校の出入口の交通について見直しを実施、赤門を利用する際には左折を徹底し、見通しをよくする改善策を検討

△遊歩道（藤棚根上がり）段差の危険対応：補正予算承認済、年度内（3月末）工事完了予定、児童・住民への安全声掛け継続

△まちづくり動向と交通量増加の懸念

学泉大学跡地の住宅開発（約200軒規模見込み）、越境通学の可能性、道路拡張の着工済み情報 提携ゴルフ場跡にトヨタ工場計画に伴う大型車増加・渋滞の懸念。事前の通行規制要望等の検討

学校・地域協働の具体化案

△コミュニティ避難訓練・餅つき等で高学年が役割を担い、低学年をまとめる機会の創出、親の参画の輪を広げる

○行政区イベントでの小学校活動紹介パネル展示、技能のある住民への授業協力依頼

△学校活動（運動・クラブ・校庭開放）に関する意見

- 運動機会の減少と子どもの成長への影響
- コロナ以降、汗をかく体験・競い合いへの執着低下への懸念。地域スポーツ（少年剣道等）の会員減少・時間帯制約による参加困難。勝ち負けへの過度な重視ではなく、仲間と目標に向か

う体験、先輩への憧れや尊敬を育む機会の重要性

現行の学校の取組と課題

- 放課後クラブ活動の廃止に伴い、正課クラブ（週 1 時間）での運動機会を提供。夏休み登校日に体育館開放の試行（ボール遊び・積み木等）
- △校庭の開放拡充の検討中（運営体制・安全管理上のハードルあり）
- △中学校クラブの委託運営、校庭貸出の希望対応（競技設備要件差により利用制限あり）

提案

- ・中学校クラブ活動の見学機会を小学生を開く等、スポーツへの触れ合い導線を強化
→運動の機会や先輩への憧れの機会が不足することで、非認知能力や社会性を育む機会が減少している。
- ・学校、市の理解と支援の拡充（地域ボランティアの活用、施設運用の柔軟化）
- ・不登校対応の状況
- ・非常勤「学校採用サポーター」任用
- ・授業支援や空き時間に保健室登校の児童との対話支援等を実施
- ・現状、完全不登校は少数で専用室常設は未整備。別室登校の要望が出た場合に体制検討

決定・合意・フォローアップ

- ・地域人材のデータベース化と市の広報・周知支援の必要性に関して、参加者間で問題意識を共有、市担当者は持ち帰り検討を表明
- ・通学路の危険箇所である藤棚の段差については、年度内に工事を完了する予定で合意、情報を共有
- ・校庭開放や運動機会拡充は検討継続（運営体制構築が課題）
- ・11月15日みどりっ子フェスタに向けた準備を継続し、児童の主体的発表を重視する方針で一致

リスク・課題の整理

- ・情報発信到達不足によるボランティア参加減少
- ・交通量増加（住宅開発や工場誘致に伴う）による通学路や周辺道路の安全性の低下
- ・食育と家庭の共食減少が人間関係・心の安定に及ぼす影響

推奨対応（短中期）

- ・情報発信の多経路化と見える化
- ・市広報・ケーブルTV・学校HP・LINE・地域イベントでの定期的PR
- ・コーディネーター活動の紹介テンプレート作成と各学年保護者への周知
- ・交通安全対策の要望・実装
- ・西門T字路の青色舗装等の視認性向上を市へ共同要望
- ・危険生物（セアカゴケグモ）情報の学校・地域間即時共有と対処フロー整備
- ・地域人材DBの設計
- ・スキル・所属・可用時間・継承可能性を含む台帳整備。近隣校連携による人材の広域協働
- ・運動機会の導入、強化
- ・校庭・体育館の計画開放日設定、地域クラブ見学会、正課クラブの種目多様化
- ・食育の具体化

6 第3回学校運営協議会日程 令和8年2月16日（月） 13：40～14：55

7 添付資料 ・ 学校運営協議会要項 ・ 「令和7年度第2回学校運営協議会報告・協議資料」